

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-188522

(43)Date of publication of application : 21.07.1998

(51)Int.Cl.

G11B 23/30

(21)Application number : 08-343271

(71)Applicant : SONY CORP

(22)Date of filing : 24.12.1996

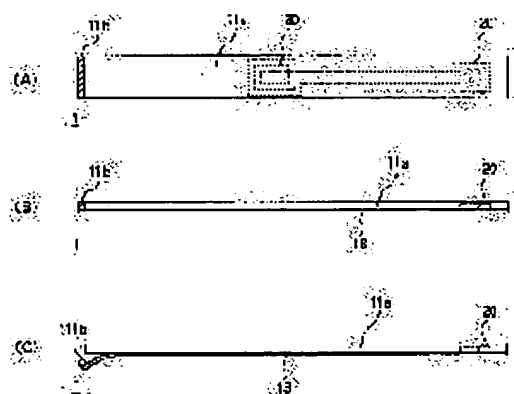
(72)Inventor : TANIMURA KAZUNARI

(54) CASSETTE LABEL

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a cassette label that houses an IC, and can prevent the breakage of the IC by inhibiting the application of bending force near the IC housed when peeling a release paper to stick it on a video cassette tape.

SOLUTION: The cassette label 1 has a released paper 18 attached onto a label base body, which has a label body 11a and a dummy part 11b. An IC 20 is housed at an end part of the label body 11a on the side opposite to the side linked to the dummy part 11b and an antenna 30 is housed near the center thereof. An adhesive is applied entirely on one surface of the label base body and the released paper 18 is attached covering the adhesive to form a cassette label 1. When the dummy part 11b is moved to the side of the adhesive, the dummy part 11b is separated from the label body 11a and moved together with the released paper 18. Thus, when the dummy part 11b and the released paper are held and peeled off, the released paper 18 can be easily peeled from the label body 11a.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-188522

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月21日

(51) IntCl⁶

G 1 1 B 23/30

識別記号

F I

G 1 1 B 23/30

Z

審査請求 未請求 請求項の数5 OL (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-343271

(22) 出願日 平成8年(1996)12月24日

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者 谷村 一成

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ

ー株式会社内

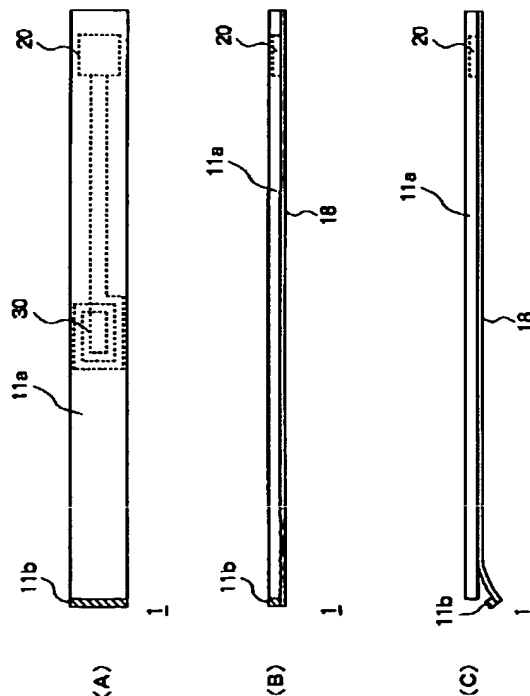
(74) 代理人 弁理士 佐藤 隆久

(54) 【発明の名称】 カセットラベル

(57) 【要約】

【課題】 剥離紙を剥離する時に収容した IC 付近に曲げ力が加わり IC が破損される場合がある。

【解決手段】 カセットラベル 1 は、ラベル基体 11 に剥離紙 18 が付着された構成であり、ラベル基体 11 は、ラベル本体 11 a とダミー部分 11 b とを有する。ラベル本体 11 a のダミー部分 11 b と連なる側とは反対側の端部に IC 20 が収容され、中央付近にアンテナ 30 が収容される。このラベル基体 11 の一方の面の全面に対して接着剤 17 が塗布され、剥離紙 18 が接着剤 17 を被覆するように付着されてカセットラベル 1 が構成される。このダミー部分 11 b を接着剤 17 側に移動させると、ダミー部分 11 b はラベル本体 11 a と分離して剥離紙 18 とともに移動するので、そのダミー部分 11 b と剥離紙 18 を保持して剥がせば、剥離紙 18 をラベル本体 11 a より容易に剥がすことができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、

前記集積回路が長手方向の一方の端部に配置されるように前記集積回路と前記アンテナ手段を収容する帯形状のラベル本体部分と、前記長手方向の他方の端部に前記ラベル本体部分とは実質的に分離されて設けられる剥離用余分部分とを有するラベル基体と、

前記ラベル基体の一方の面に形成され、該ラベル基体を貼着するための接着層と、

容易に剥離可能で前記接着層を被覆するように該接着層に付着された剥離紙であって、前記接着層により前記ラベル基体の前記ラベル本体部分を貼着する際に、前記ラベル基体の前記剥離用余分部分を当該剥離紙と付着されている方向に移動させることにより当該剥離用余分部分と一体的に前記ラベル本体部分より分離され剥離される剥離紙とを有するカセットラベル。

【請求項2】前記剥離用余分部分が設けられている前記ラベル基体の前記長手方向の他方の端部の近傍の、前記ラベル基体または前記剥離紙の一方あるいは両方の外向面に、当該端部より前記剥離紙を剥離するように指示する表示が行われている請求項1記載のカセットラベル。

【請求項3】前記ラベル基体の前記接着層が形成されていない他方の面の少なくとも前記ラベル本体部分は、任意の文字・図形等を記載することができるように形成されている請求項2記載のカセットラベル。

【請求項4】記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、

前記集積回路が長手方向の一方の端部に配置されるように、前記集積回路と前記アンテナ手段を収容する帯形状のラベル基体と、

前記ラベル基体の一方の面に形成され、該ラベル基体を貼着するための接着層と、

容易に剥離可能で前記接着層を被覆するように該接着層に付着され、前記ラベル基体と対向する領域中で前記ラベル基体の長手方向の他の端部の一部を除く実質的に大部分の領域について前記接着層を被覆する第1の部分と、前記ラベル基体と対向する領域の中の前記第1の部分被覆しない前記長手方向の他の端部の一部を被覆し、前記第1の部分とは実質的に分離され、当該部分を前記ラベル基体方向に移動させることにより当該部分と前記ラベル基体が前記第1の部分より分離される第2の部分とを有する剥離紙とを有するカセットラベル。

【請求項5】記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、

前記集積回路が長手方向の一方の端部に配置されるように、前記集積回路と前記アンテナ手段を収容する帯形状

のラベル基体と、

前記ラベル基体の一方の面に形成され、該ラベル基体を貼着するための接着層と、

容易に剥離可能で前記接着層を被覆するように該接着層に付着され、少なくとも前記ラベル基体の長手方向の他の端部付近においてその一部が対向する前記ラベル基体より大きくなるように構成されている剥離紙とを有するカセットラベル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ビデオテープカセットに装着して用い、記録したビデオデータに関する情報などを記録することのできるカセットラベルに関する。

【0002】

【従来の技術】テレビカメラなどの撮像装置により撮影され、ビデオテープに記録されるビデオデータについては、その内容等の情報を容易に確認できるような状態で記録したい、また保存したいという要望がある。特に、テレビジョン放送局において取材業務で使用する場合などにおいては、ビデオカムコーダなどにより撮影した多数のカット（連続して撮影された映像、あるいは、そのビデオデータ）の中から必要なカットを高速に選択して編集する必要がある。

【0003】これまで通常は、そのような記録したビデオデータの情報は、撮影時に別途紙面などにメモをしておき、再生時や編集時には、そのメモを見ながら所望のビデオデータを高速に選択するような方法が用いられている。また、カセットライブラリなどの大量のビデオカセットを自動的に取り扱うシステムにおいては、バーコードが印刷されたカセットラベルを用いて、ビデオカセットテープの管理を行っている。

【0004】また近年、1/4インチデジタルビデオカセットテープなどにおいては、ビデオテープを収容するカセットにフラッシュメモリなどの半導体メモリ素子を組み込み、記録時間・記録内容・タイトルなどの情報を記録できるようにしているものもある。そのようなビデオカセットテープに組み込まれた半導体メモリ素子に対するデータの記録および再生は、たとえばカセットケースの背面部の誤消去防止用ツメの近傍に設けられ、たとえば接地、電源、クロック、データの4本からなる電極を介して接触方式により行うものである。

【0005】しかしながら、そのようなこれまでの方法においては、種々の使用形態の制限や不便点がある。たとえば、紙面にメモをとる方法では、その紙を紛失する場合が生じたり、そのメモに基づいた処理を自動化できない。バーコードをラベルに印刷する方法においては、記録できる情報量に限りがあり十分ではない。また、半導体メモリを用いる方法においては、電極を適切に接触させなければならず、その位置決めを精度よく行

わなければいけないという問題や、埃の付着などにより接触不良になるという問題があった。また、既にビデオデータが記録されている、たとえばテレビジョン放送局などの数十万本というような膨大な量のビデオテープカセットに対して、その記録されているビデオデータの情報を電子化して保持するためには、それらの方法は適切ではないという問題もある。

【0006】そこで本願発明者らは、既に特願平8-300449号により出願されており図6(A)に示すような、半導体メモリなどの集積回路20(以後、ICと言う)をラベル基体11内に収容し、同じくラベル基体11内に収容される図示せぬアンテナにより非接触方式で外部とデータの転送が可能なカセットラベル90を提案している。このカセットラベルにより記録したビデオデータの付加的な情報を管理するようにすれば、前述したような種々の問題は解決される。また、ラベル基体11は一方の面に接着剤17が塗布されて通常は剥離紙18により被覆されており、この剥離紙18を剥離することにより接着剤17によりビデオカセットテープに貼着することができる。したがって、このカセットラベル90は、既にビデオデータの記録されているビデオカセットテープに対しても容易に適用することができる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】ところで、ビデオカセットテープに装着するようなそのようなカセットラベルは一般的に非常に薄く、前述した本願発明者らが提案しているカセットラベルもラベル自身が0.6[mm]程度、その中に収容される非接触メモリIC自体が0.2~0.3[mm]程度の厚さのものである。そのため、ラベル基体中にIC保護剤や補強材などを用いることにより強度を得るようにしているが、その厚みが限られていることからその強度には自ずから制限が生じており、特殊な状況においては、ICが破損する可能性が高くなるという問題がある。

【0008】そして特に、ラベル基体11をビデオカセットテープに貼着する時にそのような危険性が生じていた。すなわち、ラベル基体11をビデオカセットテープに貼着するためには、図6(B)に示すように、ラベル基体11の端部を曲げて剥離紙18を剥離する動作が通常行われる。この時に、ラベル基体11および剥離紙18に曲げ力が加わることになるが、図6(B)に示すように丁度ICがある方の端部においてこのような行為が行われると、ICとボタンとの接続部の剥がれや、IC自体にクラックが入るなど、場合によっては破壊される可能性も生じていた。仮にこのようなICの破壊が生じると、カセットラベルが使用不能になる上にそのICに記録されている情報を読み出すことも不可能になり大きな問題となる。通常であれば、金属板などにより強固にICを保護することも考えられるが、非接触でデータを送受するカセットラベルにおいては、厚みの点から、ま

た通信用の磁界が影響を受ける点などからそのような対策をとることができない。

【0009】したがって、本発明の目的は、ICを収容しており、ビデオカセットテープに貼着するために剥離紙を剥離する時に、その収容したIC付近に曲げ力が加わるのを防いでICが破損されるのを防ぐことができるカセットラベルを提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために、カセットラベルのICを収容している方とは反対側の端部のラベル本体または剥離紙に一部切れ込みを形成し、その部分から容易に剥離紙が剥がせるようにした。

【0011】したがって、本発明のカセットラベルは、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、前記集積回路が長手方向の一方の端部に配置されるように前記集積回路と前記アンテナ手段を収容する帯形状のラベル本体部分と、前記長手方向の他方の端部に前記ラベル本体部分とは実質的に分離されて設けられる剥離用余分部分とを有するラベル基体と、前記ラベル基体の一方の面に形成され、該ラベル基体を貼着するための接着層と、容易に剥離可能で前記接着層を被覆するように該接着層に付着された剥離紙であって、前記接着層により前記ラベル基体の前記ラベル本体部分を貼着する際に、前記ラベル基体の前記剥離用余分部分を当該剥離紙と付着されている方向に移動させることにより当該剥離用余分部分と一体的に前記ラベル本体部分より分離され剥離される剥離紙とを有する。

【0012】また、本発明の他のカセットラベルは、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、前記集積回路が長手方向の一方の端部に配置されるように、前記集積回路と前記アンテナ手段を収容する帯形状のラベル基体と、前記ラベル基体の一方の面に形成され、該ラベル基体を貼着するための接着層と、容易に剥離可能で前記接着層を被覆するように該接着層に付着され、前記ラベル基体と対向する領域中で前記ラベル基体の長手方向の他の端部の一部を除く実質的に大部分の領域について前記接着層を被覆する第1の部分と、前記ラベル基体と対向する領域の中の前記第1の部分が被覆しない前記長手方向の他の端部の一部を被覆し、前記第1の部分とは実質的に分離され、当該部分を前記ラベル基体方向に移動させることにより当該部分と前記ラベル基体が前記第1の部分より分離される第2の部分とを有する剥離紙とを有する。

【0013】また、本発明のカセットラベルは、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、前記集積回路が長手方向の一方の端部に配置されるように、前記集積回路と前記アンテナ手段を収容する帯形状のラベ

ル基体と、前記ラベル基体の一方の面に形成され、該ラベル基体を貼着するための接着層と、容易に剥離可能で前記接着層を被覆するように該接着層に付着され、少なくとも前記ラベル基体の長手方向の他の端部付近においてその一部が対向する前記ラベル基体より大きくなるように構成されている剥離紙とを有する。

【0014】

【発明の実施の形態】本発明の一実施の形態について図1～図4を参照して説明する。本実施の形態においては、ビデオカセットテープの背面に貼着され、たとえば記録されているビデオデータのタイトルなどが記載される、縦長帯形状のカセットラベルについて説明する。

【0015】まず、そのカセットラベルの構成について図1を参照して説明する。図1は、本実施の形態のカセットラベルを説明するための図であり、(A)は上面図、(B)は側面図、(C)は剥離紙の剥がし方を示す図である。カセットラベル1は、ビデオカセットテープに貼着される前は、図1(B)に示すように、ラベル基体11に剥離紙18が付着された構成である。ラベル基体11は、実際にビデオカセットテープに貼着されるラベル本体11aと、剥離紙18を剥離するために有効なダミー部分11bとを有する。これらラベル本体11aとダミー部分11bとは一旦1つのラベル基体11として形成された後に、切断されて実質的に分離されたものである。ラベル本体11aの長手方向のダミー部分11bと接続する端部とは異なる反対側の端部には、図1(A)に示すように、IC20が収容されラベル本体11aの中央付近にアンテナ30が収容される。ダミー部分11bは、幅が1[mm]～2[mm]程度のごく狭い領域である。

【0016】これらラベル本体11aおよびダミー部分11bからなるラベル基体11の一方の面の全面に対して、後述する接着剤17が塗布され、さらに剥離紙18がその接着剤17を被覆するように付着されてカセットラベル1が構成される。したがって、図1(C)に示すように、このダミー部分11bを接着剤17側に移動させると、ダミー部分11bはラベル本体11aと分離して剥離紙18とともに移動する。そして、図1(C)程度ダミー部分11bおよび剥離紙18が剥離したら、このダミー部分11b部分を剥離紙18とともに保持して剥がすことにより、剥離紙18をラベル本体11aより容易に剥がすことができる。すなわち、ラベル本体11aに対してなんら実質的に曲げ力を加えることなく、剥離紙18をラベル本体11aより分離することができる。

【0017】次に、カセットラベル1の構造について図2を参照して説明する。図2に示すように、カセットラベル1のラベル基体11は、コート紙12、補強材14、ポリイミド基板16が感圧性接着剤13、15により接着され一体的に形成された構成である。コート紙1

2は、表面、すなわち補強材14と対抗する面とは反対側の面が、たとえばビデオテープに記録したビデオデータのタイトル、記録日時、記録場所などの情報を記載可能になっている。

【0018】補強材14は、カセットラベル1に曲げなどの力が加わっても、カセットラベル1の各部材またはIC20やアンテナ30が割れたり切断されることの無いように一定の強度を確保するための部材である。この補強材14には、ポリイミド基板16と張り合わされた時にIC20と重なる位置に、開口部41が形成されており、IC20の厚みを吸収するようになっている。また、この開口部41により、コート紙12、補強材14およびポリイミド基板16を張り合わせた時にIC20の周辺に形成される空間には、IC保護剤が充填される。

【0019】ポリイミド基板16は、表面にIC20およびアンテナ30が実装される基板である。本実施の形態のカセットラベル1においては、IC20はポリイミド基板16の一方の端部に実装し、アンテナ30はポリイミド基板16の中央部に配線されている。両面接着剤17は、ラベル基体11をビデオカセットテープに貼着するための部材であり、一方の面がポリイミド基板16に貼着され、他方の面には剥離紙18が張り合わされている。したがって、このカセットラベル1を使用する時には、使用者はこの剥離紙18を剥がしてラベル本体11aをビデオカセットテープに貼着する。

【0020】IC20は、記憶保持可能なメモリ部と信号処理部を有する集積回路である。本実施の形態のカセットラベル1においては、IC20は8Kバイトの記憶容量のメモリを有する。また、IC20に具わる信号処理部は、13MHzのクロックで動作するプロセッサ部であり、メモリに対するデータのリード/ライト、後述するアンテナ30を介して外部リード/ライトモジュールとのデータの転送などの処理を行う。アンテナ30は、カセットラベル1のラベル本体11aと外部リード/ライトモジュールとの間で接点を持たずに電力の供給および、信号の転送を行うためのアンテナである。

【0021】なお、図1に示したカセットラベル1のラベル本体11aにおいて、その長手方向の長さは約140[mm]、幅は18[mm]、ラベル基体11の厚さは0.6[mm]である。

【0022】次にカセットラベル1の使用形態、および、適用形態について説明する。このようなカセットラベル1のラベル本体11aをビデオカセットテープ2に貼着した状態を図3に示す。図3に示すように、カセットラベル1は、ダミー部分11bの部分より剥離紙18が剥がされてラベル本体11aが抽出され、両面接着剤17によりビデオカセットテープ2の背面のラベル形状に合わせて形成された凹部54に貼着される。この時に、カセットラベル1のラベル本体11aの向きは任意

でよい。アンテナ30はラベル本体11aの中央付近に設けられているので、ラベル本体11aをどのような向きに貼着してもビデオカセットテープ2の凹部54の中央付近にアンテナ30が来ることになり、外部のリード／ライトモジュールはその位置の近傍に外部アンテナを配置して通信を行えばよい。

【0023】そして、図示せぬが、ラベル本体11aの表面には任意の筆記用具により文字や絵などの任意の図形が可視可能に記載される。なお、ラベル本体11aの表面に記載される図形は、予め印刷されているものでよい。し、ビデオカセットテープ2に装着後、形態型の印字装置などにより印字されてもよい。すなわち、ラベル本体11aは、従来のIC20やアンテナ30を有しないカセットラベルと、ほぼ同様に使用される。

【0024】図3に示すカセットラベル1のラベル本体11aの装着されたビデオカセットテープ3の使用形態を図4に示す。図4は、このカセットラベルのラベル本体11aの装着されたビデオカセットテープ3を、ビデオテープレコーダ(VTR)装置に装着し、ラベル本体11a内のIC20に対してデータの転送が行われる状態を示す図である。図4に示すように、ラベル本体11aの装着されたビデオカセットテープ3がVTR装置に装着されると、表面部の蓋54が開けられて、ビデオカセットテープ3内に収容されていた図示せぬビデオテープが引き出され、ビデオデータ記録再生装置のヘッドに当接される。

【0025】一方で、ビデオカセットテープ3の背面部にはその中央付近にVTR装置本体に設けられたラベルリード／ライトモジュール91から出されたアンテナ90が配置される。そして、リード／ライトモジュール91はこのアンテナ90を介して、カセットラベル1のラベル本体11aのIC20に対する電力の供給、および、制御を行う。すなわち、IC20内の信号処理部がメモリよりデータを読み出し、アンテナ30およびアンテナ90を介してリード／ライトモジュール91へ転送を行ったり、あるいは、リード／ライトモジュール91からIC20に対してデータを転送して、IC20内の信号処理部がそのデータをメモリに記録する動作を行う。なお、リード／ライトモジュール91はさらにVTR装置側の信号処理部(CPU)に接続され、VTR装置本体側からコントロールされるようになっている。

【0026】なお、このような動作によりIC20には、ビデオテープに記録する各ビデオデータの、カットごとの記録位置、記録時刻、記録場所、記録時間などのデータや、その記録内容を示すタイトルなどの情報、そのカットから得られたインデックスピクチャ、または、撮影者が撮影時に入力したたとえばグッドショットマークなどの情報、などが記録される。また、ビデオテープに記録されたビデオデータ全体の記録時刻、記録時間、記録場所、記録条件、記録内容を示す情報、撮影者、編

集者、編集回数、テープの使用回数、および、ショットのテイクナンバーなどの情報も記録される。

【0027】このように、本実施の形態のカセットラベル1は、そのラベル本体11aに何らかの図形を記載してビデオカセットテープ2に貼着し、ビデオカセットテープの識別および内容把握を行うという従来の使用方法と、全く同じように使用することができる。そして、IC20が収容されている部分とは反対側の端部に切れ目を入れてそこから剥離紙18を剥離し易い状態にしているので、ラベル本体11aを貼着するために剥離紙18を剥離する際にはその位置から剥離紙が剥がされ、反対側の端部のIC20が収容されている部分に曲げ力などが加わるのを防ぐことができる。したがって、カセットラベル1の貼着時にIC20を破壊してしまう危険性を非常に小さくすることができる。

【0028】そして、ビデオカセットテープ2に貼着して使用すれば、その内部に有するIC20に対して、種々のデータを記録することができる。すなわち、これまでメモとして書き留めていたような記録条件や、記録内容に係わる情報を、このカセットラベル1に記録することができる。また、そのような情報を記録する記憶部は、カセットラベル1のIC20内に設けられている。したがって、既にビデオデータの記録されているビデオカセットテープ2に対しても、このカセットラベル1を装着すればそのような補助的な情報記憶手段を有するビデオカセットテープ3が直ちに構成でき、既存のビデオデータに対しても適応することができる。また、仮にメモリが不良になった場合などには、そのカセットラベル1を張り替えるのみ修復でき、容易に取り扱うことができる。

【0029】また、このIC20に対するデータの転送は、アンテナ30およびリード／ライトモジュール91の間で通信を行うことにより、非接触方式により行われるため、接点の位置不良や、埃や消耗などによる接触不良などの問題が皆無となり、適切な付加情報の記録が可能になる。また、アンテナ30がカセットラベル1の中央付近にあるので、カセットラベル1をどちらの向きでビデオカセットテープ2に貼着しようとも、アンテナ30はかならずビデオカセットテープ2の凹部54の中央付近にくることになり、外部アンテナの位置も特定できる。すなわち、カセットラベル1はビデオカセットテープ2にどのような向きに貼着してもよい。

【0030】なお、本発明は、本実施の形態に限られるものではなく、種々の改変が可能である。たとえば、本実施の形態のカセットラベルは、ラベル基体11のIC20が収容されている端部とは反対側の端部において、ラベル基体11に切り込みを設け、ラベル基体11のダミー部分が剥離紙18と一体的に剥離されるようにすることにより、そこから剥離紙18が容易に剥離されるようにしている。しかしながら、ラベル基体11のIC2

10

20

30

40

50

0が収容されている端部とは反対側の端部において剥離紙18を剥離し易くする方法はこの例に限られるものではなく、任意の方法を用いてよい。

【0031】そのような他の例を図5に示す。図5

(A)に示すカセットラベル1bにおいては、ラベル本体11に付着されている剥離紙18の端部に切れ込みを入れ、主たる部分18aと剥離開始部分18bに分離している。その切れ込みの位置は、当然ラベル本体11のIC20が収容されている端部とは反対側の端部の位置である。このような構成のカセットラベル1においては、ラベル本体11の剥離紙18の切り込みが入れられている部分を曲げることにより、剥離紙18の主たる部分18aの端部が跳ね上がり、すなわちラベル本体11より分離した状態になり、そこを剥離開始位置として容易に剥離紙18を剥がすことが可能となる。

【0032】また、図5(B)に示すカセットラベル1cにおいては、ラベル本体11より、剥離紙18のみを長くしている。このようにしても、剥離紙18はIC20に負荷をかけずに容易に剥がすことができる。本発明は、IC20が収容されていない側の端部において剥離紙18を剥がし易い状態にすることにあり、このように種々の方法により剥離紙18を剥がし易くするようにしてもよい。

【0033】また、ラベル本体11のダミー部分を有する構成、剥離紙18に切れ込みを設けた構成、および、剥離紙18を長くする構成のいずれにおいても、IC20が収容されている位置とは反対側の剥離紙18の剥離を開始する端部に、たとえば「ここから剥がす」などの表示を記載するようにしてもよい。そのようにすれば、カセットラベル1の利用者はまず間違いなくその部分から剥離紙18を剥がすと考えられ、IC20をより確実に保護することができる。もちろん、その剥がす位置を指示する言葉は任意の言葉を用いてよい。また、その表示はラベル本体11の表面に記載してもよいし、剥離紙18に記載するようにしてもよい。また、言葉ではなく、たとえばその剥離開始位置に赤く色を付けるなどしてその剥離開始部分を示すような表示方法を用いてもよい。

【0034】また、本実施の形態においては、アンテナ30をカセットラベルの長手方向の中央付近に設けるようにした。しかし、アンテナ30の位置はこれに限られるものではなく、カセットラベル上の任意の位置に設けてよい。特に、カセットラベルの貼られる向きが統一できるような場合には、カセットラベルがのように貼られてもアンテナの位置を同一にするような考慮は必要なく、どのような位置にアンテナ30を設けてもよい。

【0035】また、カセットラベルに実装される回路も、任意の回路を実装してよい。本実施の形態においては、1個のICであるかのように説明をしたが、周辺回路を含む回路や、2つのICで構成される回路であってもよく、1個のICに限定されるものではない。その他、アンテナの形状、ラベル基体を形成するコート紙、補強材、基板などの各部材の材質、それらを接合する時に用いる接着剤、ビデオカセットテープの種類、そのサイズ、図4に示した外部アンテナの形態、外部リード/ライトモジュールの構成、ICへ記録する情報の種類などは、何ら本実施の形態の限定されるものではなく、任意に改変してよい。

【0036】

【発明の効果】本発明によれば、ビデオカセットテープに貼着するために剥離紙を剥離する時に、その収容したIC付近に曲げ力が加わるのを防いでICが破損されるのを防ぐことができるカセットラベルを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

20 【図1】本発明の一実施の形態のカセットラベルを説明するための図であり、(A)は上面図、(B)は側面図、(C)は剥離紙の剥がし方を示す図である。

【図2】図1に示したカセットラベルの構造を説明するための図である。

【図3】本発明に係わるカセットラベルの装着されたビデオカセットテープの外観斜視図である。

30 【図4】図3に示したカセットラベルの装着されたビデオカセットテープを、ビデオデータ記録再生装置に装着し、カセットラベル内のICに対してデータの転送が行われる状態を示す図である。

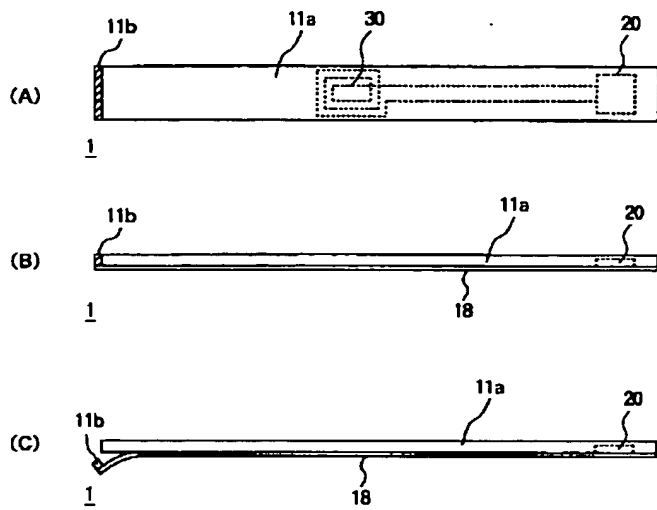
【図5】本発明のカセットラベルの他の実施の形態を示す図であり、(A)は剥離紙側に切れ込みを入れた形態を示す図、(B)は剥離紙を長くした形態を示す図である。

【図6】従来のカセットラベルを説明するための図であり、(A)は側面図、(B)は剥離紙の剥がし方を示す図である。

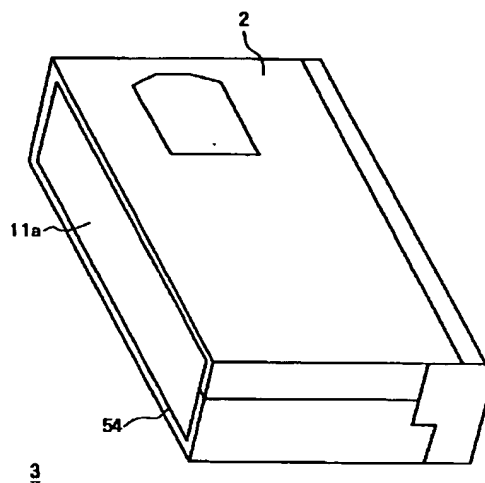
【符号の説明】

1…カセットラベル、2…ビデオカセットテープ、3…カセットラベルの装着されたビデオカセットテープ、11…ラベル基体、12…コート紙、13…感圧性接着剤、14…補強材、15…感圧性接着剤、16…ポリイミド基板、17…両面接着剤、18…剥離紙、20…IC、30…アンテナ、90…カセットラベル、91…リード/ライトモジュール

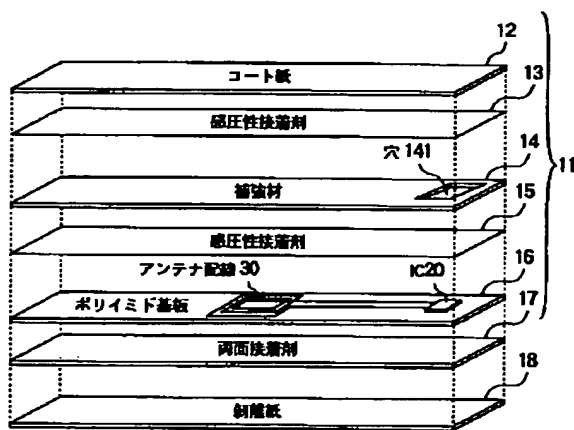
【図1】



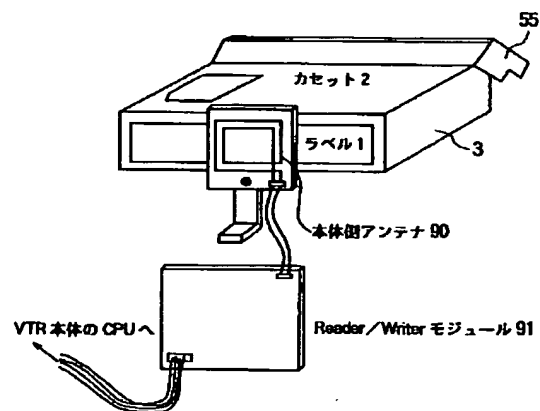
【図3】



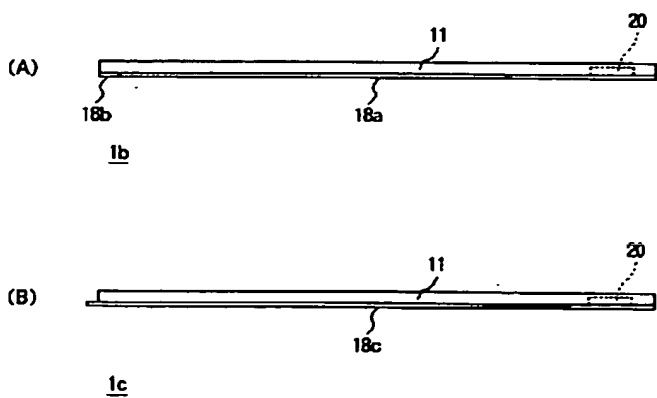
【図2】



【図4】



【図5】



【図6】

